



強い秋田

競技本部長(兼)ジャンプ・コンバインド部長 畠山 芳彦

今年度の役員改選で、長きにわたり競技本部長をされました田口将さんからバトンを引き継ぐ事になりました。改めて責務の重さを痛感しております。引き受けた限りは、各関係者の皆様と連携を取り力添えを頂き強化態勢を盤石なものとし、秋田県スキー連盟の発展に微力ながら邁進する所存です。また、今まで通りジャンプ・コンバインド部長も兼ねますので宜しくお願い致します。これまでは、ジャンプ・コンバインド部長として、ジャンプ・コンバインドを中心に物事を考えて来ましたが、競技本部長として、全てのセクションの関係各位との調和と協力姿勢を重んじ、強い秋田を掲げテクニカルアドバイザー制度を活用し競技力向上、若手の育成、人間力の倍増、紳士的なスポーツ界を作り上げることに全力投球で前進のみと決意しております。

第73回にいがた妙高はね馬国体は、天皇杯・皇后杯獲得の連覇を目指し総力を結集して望みましたが、総合4位と苦渋を味わう事になり多くの方々の期待を裏切ることとなりました。ただ、チーム秋田をスローガンに一丸となった選手団は称賛に値すると自負致しております。第74回札幌国体は、リベンジ国体であり、天皇杯・皇后杯獲得を最重要課題としチーム秋田を全面に打ち出し、一丸となり強化に取り組んでおり目標達成を目指します。各競技団体も苦慮している所の選手層の薄さですが、現状をしっかり把握し各セクションの創意工夫で強化策を進めております。2018年秋田県体育協会の競技別天皇杯得点獲得目標点数(チームAKITA1000点プラン)でS指定のスキーは、最低130点目標です。今現時点で有力な選手が怪我でリハビリに専念しており、回復し復帰すれば可能な得点と真摯に受け止めています。選手達の爆発力を信じそれ以上積み上げられることを期待しています。やれば出来る自信を確信して欲しい。

2021年秋田国体に向けて環境整備が着々と進められています。特にジャンプ競技施設の改修プランが進んでおり、来年度予算で選手・競技役員の控室の確保が現実的に成りつつあります。完成すれば、他県の監督、コーチ、選手に自慢出来る施設と感じております。また、他の施設の改修工事の要望案も現実味を帯びてきています。ここに至るまで多くの方々の協力と力添えを頂いた事に感謝申し上げます。施設の完成が非常に楽しみで素晴らしい建物と期待をしています。

秋田県スキー連盟の重要な課題として、これからの秋田を支える次世代を担うジュニア層の発掘と考えています。昨年、ジュニア層拡大のための組織委員会を設立致しました。小林博典委員長を中心に県連(特別委員会)として組織的な活動を実施し、未知のタレント発掘を目指す運動です。この活動を広く拡大する事が大きなカギであり、その一つの手段として在住のオリンピアの活用も一つの案と踏まえております。委員会では、スキーにこだわらない事も重要で運動の好きなジュニア層を見出す必要性を掲げています。(将来的にはスキーに移行を望む)日本スポーツ協会もライジングスター発掘と称しジュニア層発掘に全力投球です。特に少子化で厳しい秋田県ですが、スキー王国秋田にとって逃げて見逃す事の出来ない発掘活動とを感じる所です。

最後になりますが、まだまだ、他にも多くの課題が蓄積しております。一つ一つ関係各位の皆様方の御意見を拝聴しながら問題を解決する所存でございます。ご指導を仰ぐと共にご協力を宜しくお願い申し上げます。